

東京物理学校の思い出

7

1 戦争中の思い出

私達昭和22年3月の卒業生は、太平洋戦争末期から敗戦後の混乱期にかけて在学した者達です。

食糧難から栄養失調で体力が極度に落ちている中で、日夜を分たぬ空襲に耐え、また焼け出された級友たちを下宿に迎えるなど、共に支え合い助け合いながら勉学に励んで参りました。

この様な事が結果として、我々同期生の結束を強めていった事と思います。

我々級友は諸先輩達が勤労働員、一部兵役に服する等で殆ど学校での勉学が不十分な中、幸いそれを免がれ、一時期軍需工場や消防署への動員、埼玉県の出征農家の手伝等もありましたが、比較的短期間で済み、殆ど学校で授業を受けていました。

併し空襲が激しくなるにつれ、各学年より防空当番として十数名宛学校に泊りこみ、その任務に就きました。最も激しかったのは2度あり、一つは4月13日で、学校の裏まで火災が迫るも難を逃れ、更に5月25日では講堂に3発、石炭庫に1発、屋上その他に十数発の焼夷弾が落下しましたが、



金井健一

昭和22年3月応化卒

石炭庫の消失のみで大禍なきを得ました。このことは、消火活動に当たった教職の方々、我々同期生の一生涯の誇りに思っています。

2 豊島園での運動会の思い出

昭和21年秋に運動会を開催した事は、物理学校始まって以来の快挙であり、誠に喜ばしく、敗戦のショックと戦中戦後の混乱、苦勞等、そのうさ晴らしを兼ねて各科アイデアを競い合い、騎馬戦を始め、思い思いの趣向を凝らした仮装行列等、青春を一挙に発散させた大運動会となりました。この様な事が切っ掛けで卒業後、大学に倶楽部が出来たのを機会に集まり、更に22年会を作り、毎月の会合を楽しむ様になりました。

大空襲にも焼け残って



3 企業人会での思い出

22年会の会合中に企業人会に誘われ、初めはゴルフ会を通じて親交を深めておりました。

この会には企業見学旅行があり、毎年現地集合、現地解散の一泊旅行に参加しておりました。

その中で22年卒は平均40%を占めて居り、折角の1泊旅行なら、その前後の旅行を企画したらとの話で、私が企画して大変喜ばれました。

旅行先で囲碁の好きな者が集まり、碁に興じて居りました所、企業人会に文化部を作る話になり、平成9年頃、その部長に推薦されました。

文化部には、囲碁、写真、絵画等があり、囲碁は理窓碁院として発足し、会の助力により内容を充実しました。現在は理窓会の傘下に入り活躍をして居ります。

写真、絵画等は私が会長となり、美術同好会を作り、日帰りまたは1泊旅行を行ない、その成果を2ヵ月毎に倶楽部に展示し、また最近では外部の展覧会場を借りて展示する様な会に発展しています。

その後美術同好会は長島昭明君にバトンタッチし、彼の下で会則を作り、また理窓美術同好会と名称を変更し、理窓会の傘下に入り、現在は更に鈴木博君にバトンタッチされ、今年5月で美術展も100回目となりました。会の将来が楽しみです。

4 東京都美術館での展覧会について

私はJ.I.A.Cなる美術クラブに平成16年5月に入会しました。この会は東京都美術館で永い間展



豊島園での運動会

覧会を開催して来た伝統ある美術クラブです。会場も約760m²と広く、国際色豊かな展覧会を毎年開催しております。また美術同好会の会員も数名参加しております。

この会は33回の時に会長が体調を崩し、私にバトンタッチされ、以後悠美会と名称を変更しました。私が理事長に選出され、2期務め現在顧問になり後進を育てています。

5 卒業後の就職について

卒業後東京物理学校から理研関係の会社への就職の推薦がありました。面接で話を聞く内に理研が開発した合成酒を造る理研醗酵工業(株)のトップがパージにあうのではと恐れ、別会社を起こすために、技師として推挙されたのです。

新会社は何を造っても良いが、親会社は酒精用アルコールを造って居り、その関連会社より香料の原料となるフーゼル油が、全国より自由に入手可能な立場にあり、また戦争中純度の高い金属マグネシウムをストックしていましたので、その原料を用いて香料を造る事となり、隣に研究室を作りました。2～3年して理研の所長であった大河内先生より許可を受け、理研香料工業(株)と社名を改め、蒲田に工場を造りました。手初めに20段の回分式蒸留器を設計し、近隣の町工場と共同して2基造り、フーゼル油を蒸留し、主にイソアミールアルコールを分取し、製薬会社に販売し採算を得ました。

また森永製菓よりバターフレーバーの注文がありその一成分のジアセチルを合成し、その精製にはガラス製の十段式蒸留器を造り純度の高い製品を作りました。この事は森永製菓が戦後初めてキャラメルを販売するに当り、新聞紙にその匂いをつけて宣伝した事は画期的な事と感動した事を覚えています。またマグネシウムはベンジルクロライドと無水エーテル中で反応させ、以後アセトン及び無水酢酸と次々と反応させ、一気にジメチルベンジルカルビニールアセテートの量産化に成功しました。これは他の香料会社に先駆けて成功した事であり、実に痛快の極みであります。